

(第 1 号議案)

2022 年度事業報告

(2022 年 3 月 1 日から 2023 年 2 月 28 日まで)

一般社団法人溶接学会

(第1号議案) 2022年度 事業報告
(2022年3月1日から2023年2月28日まで)

本会は、2022年度において次の事業を行った。

I 事業報告

1. 全国大会 (定款第4条1項)
 - 1.1 春季全国大会
2022年4月13日～20日：オンライン開催
新型コロナウイルス感染拡大防止のため、現地開催を中止とし、WEB開催を実行した。一般講演をオンデマンド形式とし、特別講演・シンポジウム(日本接着学会との共催企画)、フォーラム(溶接構造研究委員会主催)、若手の会イブニングフォーラム(若手会員の会主催)をTeamsによる同時双方向型のライブ開催とした。
研究発表講演(95件)、特別講演・シンポジウム(5件)、フォーラム(講演5件)、若手の会イブニングフォーラム(6件)
参加者 352名
 - 1.2 秋季全国大会
2022年9月8日～10日：くにびきメッセ(島根県松江市)
コロナ禍後初の対面開催とした。特別講演、フォーラム(マイクロ接合研究委員会主催)、支部主催のワークショップ(日本溶接協会との共催)と技術セッション(日本機械学会中国四国支部と共催)、若手の会ポスターセッション(若手会員の会主催)を実行した。
研究発表講演(170件)、ポスター発表(59件)、特別講演(1件)、フォーラム(5件)、ワークショップ(講演4件)、技術セッション(講演5件)、展示ブース(14件)
参加者 425名
2. 講習会 (定款第4条1項)
 - 2.1 2022年度溶接入門講座(第57回)
会期 2022年6月22日(水)、23日(木)
会場 オンライン方式にて開催
受講者 65名
 - 2.2 2022年度溶接工学夏季大学(第70回)「中堅技術者講座」
会期 2022年7月25日(月)～8月8日(月)
会場 オンデマンド配信方式にて開催
受講者 36名
 - 2.3 2022年度溶接工学専門講座(第9回)
溶接冶金研究委員会と溶接教育委員会の共同開催
「溶接冶金の基礎と応用」
会期 2022年10月12日(水)
会場 大阪大学 医学・工学研究科 東京ランチ
受講者 40名
 - 2.4 2022年度溶接工学企画講座(第4回)
編集委員会と溶接教育委員会の共同開催
「ものづくりのベースになる研究・開発のレビュー&トレンド～アーク溶接プロセス～」
会期 2022年11月8日(火)
会場 大阪大学 医学・工学研究科 東京ランチ
受講者 20名
3. 刊行 (定款第4条3項)
 - 3.1 溶接学会誌91巻2号～92巻1号(8冊)
主な内容 特集、展望、レビュー&トレンド、溶接接合教室、実験指南、他
 - 3.2 溶接学会論文集40巻2号～41巻1号(4冊)(WEB)
主な内容 研究論文29篇(2023.1.12現在)
 - 3.3 全国大会講演概要集 第110集および第111集(2冊)
 - 3.4 2022年度溶接工学夏季大学教材「溶接中堅技術者講座」

4. 研究活動（定款第4条1項）

4.1 研究推進部会（山本 元道 部会長）

WEB開催1回、ハイブリッド開催1回で会合を開催し、各研究委員会の活動状況の把握及び調整、アドホック研究会の活性化、全国大会運営の活性化、論文特集号の計画を行った。

- (1) 春季全国大会においてフォーラム「グリーン社会の実現に向けた溶接構造物の新設計」（溶接構造研究委員会）を、オンラインによって開催した。
- (2) 秋季全国大会においてフォーラム「極短時間接合・加工の最前線」（マイクロ接合研究委員会）を対面開催した。
- (3) 溶接冶金研究委員会が企画し、2022年10月12日に溶接工学専門講座「溶接冶金知識を深める（溶接冶金の基礎と応用）」を対面形式で開催した。
- (4) 日本接着学会と溶接学会との連携活動について継続的に検討を行い、春季講演大会で、シンポジウム「接着・接合・溶接技術の現状と今後の展開」をオンラインで開催した。
- (5) マイクロ接合研究委員会とスマートプロセス学会エレクトロニクス生産科学部会との共同主催で、2023年1月24～25日に第29回「エレクトロニクスにおけるマイクロ接合・実装技術」シンポジウム（Mate2023）を対面形式（横浜市）開催した。
- (6) 編集委員会から要望のあった特集号企画に対して、特集号（年1回程度）を各研究委員会が持ち回りで受け持ち、論文特集号をオーガナイズすることになった。2022年度は、第3回目となり、軽構造接合加工研究委員会が担当し、17報の論文が掲載された。
- (7) アドホック研究会「大型構造物の製作、維持管理における溶接プロセスの高精度、高機能化」東康二（崇城大）（2022年3月1日～2023年9月30日）

2022年5月10日に第1回研究会をオンラインで開催し、IIW2022 C-XVにて研究発表を行う論文を審議し、3件の発表を決定した。2022年9月9日に溶接学会秋季全国大会においてオーガナイズドセッション「大型溶接構造物の製作、維持管理技術」を設け、7件の研究発表を行った。また、同日に第2回研究会を対面・オンラインで開催し、2023年3月10日にオンラインジョイントセミナー「Hungary-Korea-Japan Joint Seminar on Design, Fabrication and Maintenance of Welded Steel Structures」を開催する準備に着手した。アドホック研究会の活動期間を2023年9月まで延長することを申請し、これが承認された。

4.2 溶接構造研究委員会（中谷 光良 委員長）

会合名	開催年月日	開催地	出席者数	内容
第240回	2022.03.15	オンライン	23	研究報告 4件 日本船舶海洋工学会と合同開催
第241回	2022.06.01	ハイブリッド	32	研究報告 11件
第242回	2022.08.30	ハイブリッド	25	研究報告 3件
第243回	2022.11.21～ 22	小倉	20	研究報告 3件 見学会
第244回	2023.01.16	ハイブリッド	27	研究報告 3件

4.3 溶接法研究委員会（田中学委員長）

会合名	開催年月日	開催地	出席者数	内容
第257回	2022.05.17	ハイブリッド	94	研究報告 4件
第258回	2022.08.09	ハイブリッド	69	研究報告 4件
第259回	2022.11.24～ 25	高岡	53	研究報告 5件 見学会
セミナー	2022.11.28	ハイブリッド	36	新溶接アーク現象セミナー
第260回	2023.01.24～ 25	ハイブリッド	88, 67	研究報告 8件 溶接冶金研究委員会と合同開催

4.4 溶接冶金研究委員会（佐藤裕委員長）

会合名	開催年月日	開催地	出席者数	内容
第 249 回	2022. 5. 18	オンライン	39	研究報告 4 件
第 250 回	2022. 08. 29	オンライン	41	研究報告 4 件
第 251 回	2022. 11. 09	ハイブリッド	38	研究報告 3 件
講習会	2022. 10. 12	東京	40	専門講座
第 252 回	2023. 01. 24～ 25	ハイブリッド	88, 67	研究報告 8 件 溶接法研究委員会と合同開催

4.5 溶接疲労強度研究委員会（大沢直樹委員長）

会合名	開催年月日	開催地	出席者数	内容
第 273 回	2022. 04. 08	オンライン	30	研究報告 6 件
第 274 回	2022. 07. 05	オンライン	31	研究報告 5 件
第 275 回	2022. 11. 15	オンライン	28	研究報告 5 件
第 276 回	2023. 01. 17	オンライン	25	研究報告 5 件

4.6 高エネルギービーム加工研究委員会（塚本雅裕委員長）

会合名	開催年月日	開催地	出席者数	内容
第 99 回	2022. 05. 31	オンライン	27	研究報告 4 件
第 100 回	2022. 10. 04	大阪	34	第 100 回記念大会 歴代委員長による特別講演 3 件
第 101 回	2023. 01. 25	横浜	17	研究報告 2 件 見学会

4.7 軽構造接合加工研究委員会（藤井英俊委員長）

会合名	開催年月日	開催地	出席者数	内容
第 137 回	2022. 06. 07	オンライン	60	研究報告 5 件
第 138 回	2022. 09. 02	オンライン	36	研究報告 4 件
第 139 回	2022. 11. 21	広島	20	研究報告 2 件 近畿大学次世代基盤技術研究所見学
第 140 回	2023. 01. 12	東京	27	研究報告 4 件

4.8 マイクロ接合研究委員会（福本信次委員長）

会合名	開催年月日	開催地	出席者数	内容
第 137 回	2022. 05. 20	オンライン	34	研究報告 4 件
第 138 回	2022. 07. 29	オンライン	31	研究報告 4 件
第 139 回	2022. 09. 29	オンライン	27	研究報告 4 件
第 140 回	2022. 12. 06	東京	17	研究報告 4 件
シンポジウム	2023. 01. 24～ 25	横浜	380	Mate2023 シンポジウム

4.9 界面接合研究委員会（山崎敬久委員長）

会合名	開催年月日	開催地	出席者数	内容
第 120 回	2022. 05. 27	オンライン	30	研究報告 4 件
第 121 回	2022. 10. 07	東京	27	研究報告 4 件 日本溶接協会先端材料接合委員会と合同
第 122 回	2023. 01. 20	東京	21	研究報告 4 件

5. 国内活動（定款 4 条項 4）

5.1 日本溶接会議(JIW)の活動援助を行い、IIW2022 東京大会の運営を担った。

5.2 共催、協賛、その他

日本学術会議材料工学委員会、日本非破壊検査協会、日本溶接協会、日本高圧力技術協会、腐食防食学会、日本機械学会、軽金属溶接協会、日本材料学会、日本金属学会、日本鉄鋼協会、自動車技術会、日本工学会、その他関係学協会の活動に協力した。

- (1) 協賛：(一社)日本非破壊検査協会「第 25 回電磁気応用部門・磁粉・浸透・目視部門・漏れ試験部門合同シンポジウム「表面探傷技術による健全性診断、品質検査」(2022. 3. 11)
- (2) 協賛：第 14 回核融合エネルギー連合講演会現地事務局「第 14 回核融合エネルギー連合講演会－核融合エネルギー産業の創出に向けて－(2022. 7. 7～8)
- (3) 協賛：(一社)日本能率協会「メンテナンス・レジリエンス TOKYO 2022」(2022. 7. 20～22)
- (4) 協賛：(一社)日本能率協会「メンテナンス・レジリエンス OSAKA 2022」(2022. 12. 7～9)
- (5) 協賛：(一社)日本接着学会「第 60 回日本接着学会年次大会」(2022. 6. 23～24)
- (6) 協賛：(一社)日本塑性加工学会「第 73 回塑性加工連合講演会」(2022. 11. 18～19)
- (7) 協賛：(一社)日本高圧力技術協会「オンライン技術セミナー－圧力設備の材料、設計、施工、維持管理の基礎－(2022. 6. 22～23)
- (8) 協賛：(公社)日本材料学会「腐食防食部門委員会 第 342 回例会」(2022. 5. 23)
- (9) 協賛：(一社)レーザ加工学会「第 97 回レーザ加工学会講演会」(2022. 5. 16～17)
- (10) 協賛：(公社)腐食防食学会「第 87 回技術セミナー－表面処理による防食技術－(2022. 6. 10)
- (11) 後援：(一社)日本溶接協会「特別シンポジウム 2050 年のエネルギーと社会を支えるために－材料力学のビジョンと役割について－(第 56 回 国内シンポジウム)」(2022. 6. 16)
- (12) 協賛：(一社)日本高圧力技術協会「オンライン技術セミナー－材料の損傷・破壊の基礎知識とその適用」(2022. 7. 5)
- (13) 協賛：(一財)燕三条地場産業振興センター「燕三条ものづくりメッセ 2022」(2022. 10. 20～21)
- (14) 協賛：日本保全学会「日本保全学会 第 18 回学術講演会」(2022. 7. 13～15)
- (15) 協賛：(一社)軽金属学会「第 123 回シンポジウム「金属 3D 造形の高精度化」(2022. 6. 15)
- (16) 協賛：(一社)軽金属学会「第 124 回シンポジウム「衝撃工学の基礎と安全深化のための軽金属工業製品への応用」(2022. 6. 28)
- (17) 協賛：(一社)日本機械学会「機械材料・材料加工のシミュレーションと計測(第 2 回：複合材料の成形加工)」(2022. 6. 16)
- (18) 後援：(一社)日本溶接協会「デジタルラジオグラフィに関する技術講習会－工業分野におけるデジタルラジオグラフィの基礎とその適用－(2022. 7. 25～26)
- (19) 協賛：(一社)日本機械学会「第 27 回リーダーを目指す技術者倫理セミナー グローバルな競争下における「ゼロリスク思考」を考える」(2022. 7. 23)
- (20) 協賛：(公社)日本材料学会「腐食防食部門委員会 第 343 回例会」(2022. 7. 19)
- (21) 協賛：(公社)日本材料学会「第 52 回初心者のための有限要素法講習会(演習付き)(第 1 部)」(2022. 7. 11～12)
- (22) 協賛：(公社)日本材料学会「第 52 回初心者のための有限要素法講習会(演習付き)(第 2 部)」(2022. 8. 25～26)
- (23) 協賛：(一社)日本接着学会「第 7 回接着適用技術者養成講座」(2022. 10. 25～26(前半)
2022. 11. 1～2(前半))
- (24) 後援：ICRP-11/GEC 2022 運営事務局「第 11 回反応性プラズマ国際会議／第 75 回気体エレクトロニクス会議」(2022. 10. 3～7)
- (25) 協賛：(公社)日本材料学会「第 39 回初心者のための疲労設計講習会」(2022. 8. 30～31)
- (26) 協賛：(一社)日本鉄鋼協会「第 73 回白石記念講座「攻めの操業を支えるシステムレジリエンス－環境の揺らぎへの対応力－」(2022. 10. 7)
- (27) 後援：(一社)日本工作機械工業会「第 19 回国際工作機械技術者会議(IMEC2022)」(2022. 11. 8～13)
- (28) 協賛：(公社)日本ガスタービン学会「第 50 回ガスタービン学会定期講演会」(2022. 10. 12～13)
- (29) 協賛：(一社)日本機械学会「第 14 回最適化シンポジウム 2022(OPTIS2022)」(2022. 11. 12～13)
- (30) 協賛：(一社)スマートプロセス学会「2022 年度スマートプロセス学会学術講演会」(2022. 11. 15)
- (31) 協賛：(公社)日本材料学会「第 8 回材料 WEEK」(2022. 10. 11～14)
- (32) 協賛：(公社)日本材料学会「第 5 回 EBSD 法による損傷評価講習会」(2022. 10. 11～12)
- (33) 協賛：(一社)軽金属学会「軽金属学会第 143 回秋期大会」(2022. 11. 11～13)
- (34) 協賛：(一社)エレクトロニクス実装学会「第 32 回 マイクロエレクトロニクスシンポジウム」(2022. 9. 5～7)
- (35) 協賛：(公社)腐食防食学会「特別シンポジウム「土壌埋設環境における金属構造体の腐食現象の実態と防食技術～地層処分環境下での微生物腐食リスクコントロールを考える～」(2022. 7. 28)
- (36) 協賛：(公社)日本材料学会「第 17 回フラクトグラフィシンポジウム」(2022. 10. 13)
- (37) 協賛：(一社)日本機械学会「講習会「もう一度学ぶ機械材料学」(金属材料の基礎)」(2022. 7. 29)
- (38) 協賛：(公社)日本材料学会「第 35 回疲労シンポジウム」(2022. 10. 20～21)
- (39) 協賛：(公社)日本材料学会「第 40 回初心者のための疲労設計講習会」(2022. 10. 12～13)
- (40) 協賛：(一社)日本機械学会「機械材料・材料加工国際会議 2022(ICM&P2022)」(2022. 11. 6～10)

- (41) 後援：Spring-8 利用推進協議会「第 18 回 Spring-8 金属材料評価研究会／第 80 回 Spring-8 先端利用技術ワークショップ「放射光・中性子を活用した金属材料の分析技術」」(2022. 11. 1)
- (42) 協賛：(一社)日本工業炉協会「2022 年度 工業加熱における「拡散接合技術」講演会」(2022. 11. 7)
- (43) 協賛：(一社)日本計算工学会「オースタムスクール 2022「非線形有限要素法による弾塑性解析の理論と実践」」(2022. 11. 11～12)
- (44) 協賛：(一社)日本鉄鋼協会「第 245 回西山記念技術講座「失敗しない評価・分析・解析技術の最前線(不確定要素の理解と適切な手法の選択に向けて)」」(2022. 11. 7)
- (45) 協賛：(一社)日本鉄鋼協会「第 246 回西山記念技術講座「失敗しない評価・分析・解析技術の最前線(不確定要素の理解と適切な手法の選択に向けて)」」(2022. 11. 14)
- (46) 協賛：(一社)強化プラスチック協会「66th FRP CON-EX2022(第 66 回 FRP 総合講演会・展示会)」(2022. 10. 13～14)
- (47) 協賛：(一社)日本溶接協会「熱切断作業の品質と安全講習会ーガス、プラズマ、レーザー切断の勘所」(2022. 11. 16)
- (48) 協賛：(一社)軽金属学会「国際連携を見据えたマグネシウム・チタン若手研究会」(2022. 11. 18)
- (49) 協賛：(一社)軽金属学会「軽金属基礎技術講座「アルミニウムの製造技術」」(2022. 11. 24～25)
- (50) 協賛：(一社)軽金属学会「第 32 回軽金属セミナー『アルミニウム合金の組織ー入門編(状態図と組織)(第 12 回)』」(2022. 12. 16)
- (51) 協賛：(一社)軽金属学会「第 33 回軽金属セミナー『アルミニウム合金の組織ー中級編(時効析出)(第 11 回)』」(2023. 1. 27)
- (52) 協賛：(一社)軽金属学会「第 34 回軽金属セミナー『アルミニウム合金の組織ー応用編(加工・熱処理による組織変化)(第 9 回)』」(2023. 2. 17)
- (53) 協賛：(一社)日本機械学会「ねじ締結の基礎～締付けから疲労まで～」(2022. 9. 7)
- (54) 協賛：(一社)日本機械学会「講習会「セラミックス材料製造プロセスと多孔質材料」」(2022. 9. 9)
- (55) 協賛：(一社)日本計算工学会「講習会「変分法とアイソレート要素法の理論と実際」」(2022. 11. 9)
- (56) 協賛：(一社)日本接着学会 構造接着・精密接着研究会事務局「2022 年度 第 31 回 構造接着・精密接着シンポジウム」(2022. 11. 29)
- (57) 協賛：(一社)日本高圧力技術協会「オンライン技術セミナーーエネルギー貯槽技術の最新動向ー」(2022. 12. 1)
- (58) 協賛：(公社)日本材料学会「第 60 高温強度シンポジウム」(2022. 11. 24～25)
- (59) 協賛：(公社)日本材料学会「腐食防食部門委員会 第 345 回例会」(2022. 11. 22)
- (60) 協賛：(公財)溶接接合工学振興会「第 31 回セミナー「溶接・接合技術に萌芽する省人化・無人化・デジタルライゼーション」」(2022. 10. 31)
- (61) 協賛：(公社)日本材料学会「第 59 回 X 線材料強度に関する討論会ーカーボンニュートラル・水素社会実現のための材料強度課題ー」(2022. 11. 14～15)
- (62) 協賛：(公社)日本材料学会「第 34 回信頼性シンポジウムー安心・安全を支える信頼性工学の新展開ー」(2022. 12. 3～4)
- (63) 協賛：(公社)腐食防食学会「第 47 回コロージョン・セミナー 様々な腐食・劣化に対応できる腐食防食研究者・技術者を指してー電気化学測定に基づいた腐食反応評価・解析の理解ー」(2022. 11. 21/11. 30)
- (64) 協賛：(一社)日本非破壊検査協会「第 30 回超音波による非破壊評価シンポジウム」(2023. 1. 24～25)
- (65) 協賛：(一社)軽金属学会「第 125 回シンポジウム「カーボンニュートラルに向けたアルミニウム溶解工程の効率化」」(2022. 12. 21)
- (66) 協賛：(一社)日本高圧力技術協会「オンライン技術セミナー 高圧水素基礎講座ー安全な機器運用のためにー」(2022. 12. 14)
- (67) 協賛：(一社)日本機械学会「講習会「クリープおよび高温疲労・熱疲労の基礎」」(2022. 10. 5)
- (68) 協賛：(一社)日本機械学会「講習会「炭素繊維強化複合材料の疲労破壊特性の基礎と寿命評価技術」」(2022. 10. 21)
- (69) 協賛：(一社)日本非破壊検査協会「第 26 回国際アコースティック・エミッションシンポジウム(IAES-26)」(2022. 10. 31～11. 2)
- (70) 協賛：(一社)軽金属学会「第 126 回シンポジウム「軽金属研究のための分析・解析」」(2023. 1. 25)
- (71) 協賛：(一社)レーザー加工学会「第 24 回レーザー精密微細加工国際シンポジウム」(2023. 6. 13～16)
- (72) 後援：(一社)日本溶接協会「第 8 回溶接・接合プロセス研究委員会主催シンポジウムーカーボンニュートラルに貢献する溶接技術ー」(2022. 12. 9)
- (73) 後援：(一社)日本溶接協会「原子力プラント機器の健全性評価に関する講習会」(2022. 12. 20～21)
- (74) 後援：(公社)日本アイソトープ協会「第 60 回アイソトープ・放射線研究発表会」(2023. 7 月頃)
- (75) 協賛：(公社)日本ガスタービン学会「第 51 回ガスタービンセミナー」(2023. 1. 24～25)
- (76) 協賛：(一社)エレクトロニクス実装学会「第 37 回エレクトロニクス実装学会春季講演大会」(2023. 3. 13～15)
- (77) 協賛：(一社)レーザー加工学会「第 97 回レーザー加工学会講演会」(2023. 1. 11～12)
- (78) 協賛：(一社)日本機械学会「第 1 回技術と社会の連関セミナーー近未来社会を展望したときに見える連関技術を知るー」(2023. 1. 21)
- (79) 協賛：(一社)日本塑性加工学会「2023 年度塑性加工春季講演会」(2023. 6. 9～11)
- (80) 協賛：(一社)日本計算工学会「第 28 回計算工学講演会」(2023. 5. 31～6. 2)
- (81) 協賛：(公社)日本材料学会「腐食防食部門委員会 第 346 回例会」(2023. 1. 13)
- (82) 協賛：(公社)日本材料学会「2022 年度 JCOM 若手シンポジウム」(2023. 1. 19～20)
- (83) 共催：(一社)日本原子力学会「原子力総合シンポジウム 2022」(2023. 1. 26)
- (84) 後援：(一社)日本溶接協会「LMP シンポジウム 2023 レーザ加工技術の基礎・応用と最新動向」(2023. 2. 28～3. 1)
- (85) 協賛：(一社)軽金属学会「軽金属学会 第 144 回春期大会」(2023. 5. 12～14)
- (86) 協賛：(一社)軽金属学会「第 127 回シンポジウム「軽金属材料の高強度化の最前線」」(2023. 3. 27)
- (87) 協賛：(一社)神戸観光局内 Techno Ocean 2021 実行委員会「Techno Ocean 2023」(2023. 10. 5～7)
- (88) 協賛：画像センシング技術研究会(アドコム・メディア(株)内)「SSII2023(第 29 回画像センシングシンポジウム)」(2023. 6. 14～16)
- (89) 協賛：(一社)日本保全学会「第 22 回保全セミナーーDX(デジタルトランスフォーメーション)を活用して原子力保全に革新を！ー」(2023. 2. 24)
- (90) 協賛：(公社)日本工学会「第 4 回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム」(2023. 3. 4)
- (91) 共催：(一社)Eco Design2023 事務局
(大阪大学小林研究室内)「Eco Design2023 第 13 回環境調和型設計とインバースマニュファクチャリングに関する国際シンポジウム」(2023. 11. 29～12. 1)

- (92) 協賛：(公社)日本材料学会「第8回初心者にもわかる信頼性工学入門セミナー(オンライン)」(2023.2.20)
- (93) 協賛：(一社)日本非破壊検査協会「第26回電磁気応用部門・磁粉・浸透・目視部門・漏れ試験部門合同シンポジウム「表面探傷技術による健全性診断、品質検査」」(2023.3.16)
- (94) 協賛：(公社)日本ガスタービン学会「International Gas Turbine Congress 2023 Kyoto (IGTC2019 Kyoto)」(2023.11.26～12.1)
- (95) 協賛：(一社)日本計算工学会「ウィンタースクール「トポロジー最適化の基礎-積層造形によるモノづくりへの応用-」」(2023.3.8～9)
- (96) 後援：(一社)日本溶接協会「溶接トラブル事例に学ぶステンレス鋼の有効活用と信頼性確保-設計者のための溶接管理技術-」(2023.3.17)
- (97) 協賛：(公社)腐食防食学会「第195回腐食防食シンポジウム-塗覆装の劣化損傷とその評価・解析技術の現状と今後-」(2023.3.3)
- (98) 後援：(一社)日本溶接協会「圧力設備の溶接設計施工テキスト講習会-圧力設備の構造、具体的な設計、製作、溶接・施工要領、品質管理のポイントについて」(2023.3.8)
- (99) 協賛：(公社)日本材料学会「腐食防食部門委員会 第347回例会」(2023.3.30)
- (100) 協賛：(公社)日本材料学会「第57回X線材料強度に関するシンポジウム」(2023.7.20～21)
- (101) 協賛：(公社)日本材料学会「第8回マルチスケール材料力学シンポジウム」(2023.5.28)
- (102) 協賛：(一社)日本複合材料学会「第14回日本複合材料会議(JCCM-14)」(2023.3.14～16)
- (103) 協賛：(一社)日本機械学会「ウイズコロナ時代のリモート/ハイブリッドプレゼン技術」(2023.2.22)
- (104) 後援："JCOSSAR2023 事務局 (土木学会)"「第10回 建造物の安全性・信頼性に関する国内シンポジウム(JCOSSAR2023)」(2023.10.25～27)
- (105) 協賛：(一社)日本接着学会「第61回日本接着学会年次大会」(2023.6.22～23)
- (106) 協賛：(一社)日本鉄鋼協会「第247回西山記念技術講座「サステナブルな社会を支える高機能厚板の技術進展と将来展望」」(2023.5.24)
- (107) 協賛：(一社)日本鉄鋼協会「第248回西山記念技術講座「サステナブルな社会を支える高機能厚板の技術進展と将来展望」」(2023.6.6)

5.3 次の学協会と機関誌を交換し研究連絡、情報交換を行った。

学協会名	誌名	学協会名	誌名
軽金属学会	軽金属	日本鋼構造協会	JSSC
軽金属溶接協会	軽金属溶接	日本鉄鋼協会	鉄と鋼
高圧ガス保安協会	高圧ガス	〃	ふえらむ
電気学会	電気学会誌	〃	ISIJ International
土木学会	土木学会誌	日本溶接協会	溶接技術
日本機械学会	日本機械学会誌	日本船舶海洋工学会	KANRIN (咸臨)
日本金属学会	まてりあ	日本接着学会	日本接着学会誌
日本建築学会	建築雑誌	日本非破壊検査協会	非破壊検査

6. 国際活動 (定款4条項4)

6.1 国際溶接学会 (IIW) 関連

日本溶接会議 (JIW) の活動を通じて、国際溶接学会 (IIW) の活動に参加した。2022年第75回年次大会は、東京で開催され、新型コロナウイルス感染症拡大の影響がやや落ち着いたこともあり初めてのハイブリッド形式で開催された参加登録者は43カ国から850名、うち海外からの登録者は513名(オンライン245名)となった。ドイツからの参加は103名(対面71名)で海外からの参加者として一番多かった。例年多くの参加者を出している中国については渡航制限のため61名(対面1名)にとどまった。今回のIIW年次大会は国際会議をWU会議の前に開催する新たな形式で行った。

今年も昨年と同様に若手研究者に対する登録費用の援助をJIWが行ったため当会メールマガジンのシステムを活用し会員に対して周知を行い、42名の若手研究者が登録し、33件の研究発表を行った。

6.2 アジア溶接連盟 (AWF) 関連

IIW2022に合わせ7月14～16日に溶接会館にてハイブリッド会議を行い、12月にはインドネシア/バリにてハイブリッド会議を持った。

6.3 機関誌の交換

次のとおり機関誌を交換し、研究情報の交流を推進した。なお、交換した機関誌は溶接会館図書室にて開示している。

誌名	国名
WELDING JOURNAL	アメリカ
Schweiss- & Pruftechnik	オーストリア
Soldagem & Inspecao	ブラジル
Welding and Cutting	ドイツ
DVS MAGAZIN	〃
Hitsaus Tekniikka	フィンランド
Rivista Italiana della Salddatura	イタリア
Sudura	〃

Lastechnik	オランダ
Biuletyn (Instytutu Spawalnictwa)	ポーランド
Welding & Material Testing	ルーマニア
Svetsaren	スウェーデン
Welding International	イギリス
Weldpoint	シンガポール

II 会務報告

1. 第90回 定時総会

日時 2022年4月13日(水) 開会 午前10時00分 閉会 午前11時10分

開催方式 TeamsによるWeb会議

議決権を有する者：代議員(社員) 85名

出席 38名

委任状 35名

合計 73名

議事

- | | |
|--------------------------------|----|
| ① [第1号議案] 2021年度事業報告承認の件 | 承認 |
| ② [第2号議案] 2021年度決算報告の承認 | 承認 |
| ③ [第3号議案] 監査報告 | 報告 |
| ④ [第4号議案] 2022・2023年度理事・監事選任の件 | 承認 |
| ⑤ 2022年度事業計画の件 | 報告 |
| ⑥ 2022年度予算の件 | 報告 |
| ⑦ 特別員の推薦及び表彰の件 | |

特別員の推薦

・秋山 哲也、石出 孝、田沼 吉伸

溶接学会業績賞

・小原 昌弘

佐々木賞

・佐藤 豊幸、山岡 弘人

溶接学会論文賞並びに論文奨励賞

溶接学会論文賞

・山崎 圭、浅野 涼、戸田 亮、齋藤 康之、茂田 正哉、田中 学

・木村 真晃、日下 正広

溶接学会論文奨励賞

・前田 新太郎、吉岡 優馬

田中亀久人賞

・齋藤 雅哉、志村 竜一、笹木 聖人、高山 力也、岩上 友勝、坂林 直樹

溶接学術振興賞

富田 正吾、安西 敏雄

妹島賞

・岡部 能知、伊木 聡、田近 久和、松井 穰

溶接学会ベストオーサー賞

・引口 学、阪上 隆英

溶接学会技術貢献賞

・大川 鉄平

溶接技術奨励賞

北海道支部：齋藤 繁

東北支部：推薦なし

東部支部：瀬渡 直樹、樽井 大志

東海支部：渡辺 吾朗

北陸支部：推薦なし

関西支部：上園 敏郎、室 嘉浩

中国支部：日野 実

四国支部：中島 俊一

九州支部：上村 誠、岡田 公一

溶接技術普及賞

北海道支部：岡田 昌樹

東北支部：近内 幸夫 君、齋藤 修一

東部支部：塚原 幸一

東海支部：推薦なし

北陸支部：推薦なし

関西支部：杉野 道夫

中国支部：草場 卓哉

四国支部：辰巳 圭一

九州支部：坂本 幸宏、小林 秀稔

溶接学会優秀研究発表賞

2021年度春季全国大会：藤尾 駿平、森田 花清、井上 洋輝

2021年度秋季全国大会：八島 聖、丸本 啓太、植垣 亜廉、太田 匡人、相原 巧、小野 進

溶接学会優秀ポスター発表賞

・中村 陵馬、久保田 恭平、呂 志威、山下 悠登

溶接学会シンポジウム賞

Mate 2022

Mate 2022優秀論文賞

- ・荒木 徹平、植村 隆文、関谷 毅

Mate 2022奨励賞

- ・佐野 光雄、古山 大貴

溶接学会奨学賞

北海道支部：推薦なし

東北支部：鈴木 聖顕

東部支部：遠山 史晃

北陸支部：推薦なし

東海支部：西 貴之、大竹 弘晃

関西支部：加藤 拓也、玉越 悠暉、久保田 恭平、佐藤 祐理子、田中 靖人、米倉 真大

中国支部：丸本 啓太

四国支部：推薦なし

九州支部：田門 岳大、平山 響

⑨ 溶接学会フェロー認定（入会年順）

- ・島貫 広志

⑩ 溶接学会記念基金その他の寄付金の受け入れ状況及びその活用状況報告

⑪ 感謝状贈呈(送付)

東海支部殿（2021 年度秋季全国大会開催担当）

2. 理事会（定例 6 回）

本年度の主な議題・決議事項

(1) 2022 年度事業報告・決算、2023 年度事業計画・予算

- ① 2022 年度事業報告・決算について承認し、定時総会に諮ることとした。
- ② 2023 年度事業計画・予算について承認し、定時総会に報告することとした。
- ③ 2026 年度に迎える溶接学会創立 100 周年に向け特別事業会計を設置した。

(2) 学会組織運営

- ① 新型コロナウイルス感染症への対応として 2022 年 6 月からハイブリッド方式の会議開催ガイドラインを策定し運用を図った。
- ② 2022 年度各賞授賞審査委員長を指名し、審査委員会について承認した。

(3) 学会活性化・効率化

- ① 2023 年度名誉員・特別員を推薦し、2022 年度各賞受賞者について承認した。
- ② 春季全国大会時の日本接着学会との共催企画として特別講演「接着・接合技術の現在と将来への展望」・シンポジウム「接着・接合・溶接技術の現状と今後の展開」を開催した。
- ③ 秋季全国大会時の日本溶接協会との共同企画としてワークショップ「現場で使える溶接技術の基礎と最新動向」を、日本機械学会中国四国支部と共催にて技術セッション「日本の製造業におけるデジタルものづくりの最新動向」を開催した。

(4) 研究委員会活動

- ① 各研究委員会の活動はオンライン、オンライン併用等の形態で順調に活動が実施できている。オンラインによる活動のため、かなりの経費が節減できている。
- ② Mate2023 シンポジウムを共同開催し、溶接学会シンポジウム賞授賞について承認した。

(5) 国際対応

- ① 日本溶接会議(JIW)の活動を通じ、国際溶接学会(IIW)の活動に参画した。第 75 回年次大会・国際会議（東京大会）2022 年 7 月 17 日～22 日、対面+オンラインのハイブリッドにて開催した。ハイブリッド大会の開催は初めてのことであった。45 カ国から 850 名の参加者があり、盛況であった。日本開催のため国内参加者は 337 名であった。
- ② アジア溶接連盟(AWF)も IIW 年次大会・国際会議に合わせ東京で開催され JIW を通じて活動に協力した。

3. JIW 共同企画委員会

年度内 2 回の委員会を開催し、下記事項について検討を行った。

(1) JIW 理事会に関する報告

2022 年 IIW 年次大会日本開催の準備状況、参加者数・全体収支決算の報告。国際会議の講演数は 185 件となった。

(2) 若手研究者への IIW 参加登録支援の報告

今年度の IIW 年次大会に JIW として参加登録料の支援を行った。支援の案内については溶接学会のメーリングシステムを使用し溶接学会会員へ案内を行った。参加登録料の芯は、溶接学会会員を中心に 42 名に行った。

(3) 積層造形技術での協力

日本溶接協会では実施を計画している積層技術に関する認証制度において溶接学会が学術部門へ協力することが要請された。

4. 業務委員会活動

4.1 企画委員会 (大畑 充 委員長)

年度内 5 回の委員会を開催し、学会の再活性化のために、以下の活動基盤強化アクションを展開した。

- (1) 日本溶接協会との連携強化：JIW 共同企画委員会において策定した中長期的な活動ビジョンに基づき、人材育成・教育、アディティブ・マニュファクチャリング (AM) などの新規分野開拓、本会若手会員の会と連携したアウトリーチ活動、広報・出版を通じて更なる連携強化に努めることとした。
- (2) 財務強化アクション：新型コロナウイルス感染症によるパンデミックが収束の方向にある中、全国大会運営委員会、溶接教育委員会、財務強化委員会と連携して、2022 年度の学会活動の維持・発展と学会財務の健全性確保に取り組み、定例の全国大会、教育関連の各種講習会 (入門講座、夏季大学、専門講座、企画講座) を企画し、オンラインシステムを活用しながら効果的に開催した。全国大会やオンラインを活用した講習会の活況により、黒字を維持することに成功した。他方、今後の財務状況の適正化を目指し、会員メリット明確化、デジタルコンテンツの WEB 配信を含めた会員サービスの向上など会勢増強に向けた具体的施策を検討・実施し、財務強化に資するアクションを実行することとした。また、財務強化委員会と連携して、2023 年度予算から『溶接学会 100 周年記念事業基金』の新設を進めることとした。
- (3) オンライン化アクション：一昨年度に企画委員会内に設置されたオンライン化WGで構築したオンデマンド方式オンライン会議システムを、全国大会運営委員会と連携して春季全国大会および秋季全国大会に、また、溶接教育委員会と連携して各種講習会への活用を図った。
- (4) 全国大会アクション：ポスト・コロナ時代を見据えた春季全国大会と秋季全国大会の在り方について、全国大会運営委員会と連携して継続検討した。春季全国大会では、本会オリジナルのオンデマンド方式にライブ方式を効果的に組み合わせた完全オンライン開催を実行し、また、秋季全国大会では対面形式での開催を実現し、オンライ配信を組み合わせたニュースタイトルの大会として成功裏に終えることができた。今後、これらの経験と知見を基に、オンライン開催の会員サービスや財務の観点からの利点を考慮しながら、引き続き、全国大会の改革、日本溶接協会、軽金属溶接協会、日本接着学会など他学協会との連携、さらには各支部との連携の在り方などについて検討し、ポスト・コロナ時代を見据えた全国大会を実施すべく進めることとした。
- (5) 教育関連アクション：ポストコロナ時代に向けた移行期において、計画していた全ての学会主催の講習会 (入門講座、夏季大学、専門講座、企画講座) についてはオンラインシステムを活用しながら柔軟に開催した。講習会の内容や規模に合わせてオンデマンド方式とライブ方式を選択するなど、新しい試みにも取り組み、大きな成果を得た。また、デジタルコンテンツの活用方法と講習会プログラムの一貫性について検討を進め、特に、入門講座の改定を試みた。
- (6) 編集出版アクション：学会誌内容の刷新 (企画講座など)、「溶接技術」誌との協業 (寄稿)、論文集の活性化 (特集号の刊行) などについて検討した。特に、軽構造接合加工研究委員会との連携による特集号企画を通じた論文集の掲載数増加に貢献した。また、学会誌記事の一部のカラー図面や動画による Web 配信について、会員の要望を反映する方策を検討した。
- (7) 論文査読・審査アクション：電子査読システム Editorial Manager の導入により、査読者への利便性と査読期間短縮を推進しながら、投稿原稿の書式、査読報告書書式、査読フローの見直しを行い、使いやすい電子査読システムへの改善検討を行った。
- (8) 研究委員会アクション：論文集の活性化に向けた特集号の継続的な刊行を推進するため、研究委員会の持ち回り制など具体的な施策を遂行した。また、新型コロナウイルスの影響による研究委員会の開催状況について情報交換を行い、ポスト・コロナ時代に向けた移行期の開催方法について検討した。
- (9) 情報化アクション：溶接情報化委員会と連携して、学会ホームページをリニューアルし、会員へ提供する各種サービスの充実・強化を図った。

- (10) 国際交流アクション：東京で開催された IIW2022 年次大会・国際会議では運営全般、論文募集を推進し、成功裏におけることができた。また、多くの国際会議等がオンライン開催化される中、本会の国際交流の在り方や海外に向けたサービスについて検討した。
- (11) 若手活性化アクション：若手会員の会主催によるイブニングフォーラム、オンラインを活用した勉強会（オンライン名刺交換会）、秋季全国大会ポスターセッションなどの企画・開催を推進した。また、グローバルネットワーク活動、高校生・高専生向けの活動、ホームページ移行について検討を進めた。

4.2 溶接情報化委員会（藤井 英俊 委員長）

本会の情報化方針をふまえて、本会の情報発信に関する以下の活動を実施した。

- (1) 学会活動の情報発信強化、セキュリティ対策の向上、会員・賛助員へのサポート向上等を目的に、新しい学会ホームページの立ち上げを行った。
- (2) 全国大会や講習会等の主催行事情報、日本溶接協会や軽金属溶接協会等の関連団体のリンク掲載や最新情報の提供などを随時実施し、学会 HP の充実をはかった。
- (3) 本会の会誌、論文集、及び全国大会講演概要を、本会ホームページ(HP)から J-STAGE (科学技術振興機構の総合学術電子ジャーナルサイト)にリンクを張って以下のように公開中である。
 - ・ 学会誌：創刊号～第 92 巻第 1 号(2023 年度)までを J-STAGE にアップロードして公開している。
 - ・ 論文集：第 1 巻(1983 年度)～第 41 巻 1 号(2023 年度)までを J-STAGE にアップロード済みで、一般公開している。
 - ・ 講演概要：2003 年度秋季大会～2022 年度秋季大会までを J-STAGE にアップロード済みで一般公開している。

4.3 編集委員会（佐藤 裕 委員長）

溶接学会誌ならびに溶接学会論文集の編集及び刊行を行った。論文集は WEB 論文集として発行した。溶接学会誌は年 8 号を刊行し、下記に示す 7 回の特集と 1 回のレビュー&トレンドの企画を行った。タイトルは以下の通りである。

- 「脱炭素社会を実現するためのエネルギー施策とものづくり技術」
- 「溶接構造物の補修・補強及び欠陥検出に関する最近のトピックス」
- 「表面改質技術の最前線」
- 「最新の溶接技能伝承」
- 「溶接・接合をめぐる最新の動向」
- 「新進気鋭 ―溶接 DX の最前線に挑む若手研究者たち―」
- 「溶接・接合技術の発展を支える分析・解析技術」
- 「レビュー&トレンド：粒界工学とそのオーステナイト系ステンレス鋼溶接部への応用」

溶接学会誌各号の記事に対する学会員モニター115 名によるアンケートを実施し、学会誌の内容充実努めた。また、2021 年のアンケート結果の取りまとめを行い、集計結果報告を Vol. 91, No. 5 に掲載した。アンケート結果も考慮して、年間の学会誌掲載記事より、ベストオーサー賞候補者 2 件を選考した。

企画講座の検討・実施：教育委員会と協力して、学会誌の企画記事、特集記事、レビュー&トレンド記事を基にした企画講座を開催した。第 4 回企画講座は「アーク溶接プロセス」をテーマとし、アーク溶接プロセスに関する 2 件の記事の執筆者による講座を、2022 年 11 月 8 日(火)10:00-16:20 に、大阪大学医学・工学研究科東京ランチで対面にて実施した。参加者 20 名であった。引き続き、教育委員会と協力して検討する。

溶接学会論文集での特集関連：企画委員会発議で、研究推進部会にて調整され、各研究委員会持ち回りにて企画することになった特集号では、第 1 回：溶接冶金研究委員会、第 2 回：溶接法研究委員会に引き続き、軽構造接合加工研究委員会が第 3 回を取りまとめ、19 件の投稿があり、17 件が 41 巻 1 号(2023 年)の p. 1-149 に掲載された。2023 年度はマイクロ接合研究委員会と界面接合研究委員会が合同で担当する。

Welding International (WI) 誌への翻訳掲載動向：2019 年 8 月 28 日(水)の契約完了後、2019 年 11 月～2020 年 4 月の期間、WI への翻訳掲載までの手順を相談して決め、4 月に新しい Editor in chief が就任し、手順に沿って作業を進め、見直しを行いながら作業を進めてきた。これまでの経過を以下に報告する。溶接学会論文集 Vol. 37, No. 3, 4 それぞれ 4, 9 論文、Vol. 38, No. 1, 2, 3, 4 それぞれ 5, 5, 3, 16 論文、Vol. 39, No. 1, 2, 3, 4 それぞれ 6, 3, 5, 8 論文、Vol. 40, No. 1, 2,

3, 4 それぞれ 2, 3, 3, 8 論文が採択された。翻訳、著者確認、Editor in Chef 確認が終了した論文は WI の Vol. 33-35 の No. 1-3, 4-6, 7-9, 10-12 と Vol. 36 の No. 1~11 に公開済である。

学会誌ビジョン WG による「溶接学会誌」と「溶接技術」の協業: 「溶接技術」に溶接学会から 1 頁の情報記事「溶接学会ニュース」を継続して寄稿中。寄稿記事内容は学会誌目次を中心に共通講座(入門講座、夏季大学)、分野別講座(専門講座)、企画講座、各支部、研究委員会情報などの発信で構成している。

溶接学会論文集年間論文受付件数: 年間論文受付の変化(各分野、企業/中立機関別のまとめ)を編集委員会、企画委員会、理事会にて情報共有中である。

科学技術情報発信・流通総合システム(J-stage)にて、溶接学会誌は創刊号からを対象として、会員には発行直後から公開、非会員には発行日から 5 年経過後に公開、溶接学会論文集は創刊号からを対象として発行直後から一般公開した。

4.4 論文査読・審査委員会(山根 敏 委員長)

電子査読システムに関して、Editorial Manager のみとなり、特集号などにも対応できるようになった。このシステムを査読者が用いたときに、システムの表示が分かりにくい項目などがあり、これらを修正した。また、Express 投稿論文に関して、投稿論文体裁等が不備なものの投稿などや修正期間が長いものなどがあり、このことに対する対応を査読手順により行った。コロナ禍での在宅勤務が増えているため、Express 投稿論文の査読者を確保しにくいいため、本年度も Express 投稿論文の受付を停止している。年間論文掲載数は 48 件であり、特集号を開始後、40 件台を維持している。今回、特集号では査読対象となる分野が多岐に渡ったこともあり、査読者選定に時間がかかり、原稿受付から掲載承認までの平均日数が昨年度より大幅に増加し、161 日であった。

特集号の査読などにおいて査読上の課題があり、論文原稿投稿著者および査読者が互いに敬意を払い査読回答の作成などを行うための査読マニュアルなどの作成にとりかかっている。また、査読者が少ないことが課題であり、増やす必要がある。現在、査読者への登録者数は 364 名となった。さらに、論文査読に関する疑義照会があり、どのように対応していくかについての検討も行った。

4.5 全国大会運営委員会(伊藤 和博 委員長)

- (1) 年度内 2 回の委員会ならびに 3 回の臨時 WG 会議をいずれもオンラインにて開催し、2022 年度春季・秋季全国大会および 2023 年度春季・秋季全国大会の企画・運営について協議決定した。
- (2) 講演概要集第 110 集および第 111 集を編集発行した。
- (3) 2022 年度秋季および 2023 年度春季全国大会プログラムを編成した。
- (4) 2022 年度秋季全国大会を対面で開催するにあたり、中国支部全国大会実行委員会と協力しながら企画イベントの運用方針を整備した。また、技術セッション、ワークショップ参加受付システムおよび決済機能、参加証への QR コード追加および来場者入場チェック機能を大会システムに追加整備した。
- (5) 2022 年度春季および秋季全国大会研究発表の「溶接学会優秀研究発表賞」、ならびに 2022 年度秋季全国大会研究発表の「溶接学会優秀ポスター発表賞」の審査を実施した。
- (6) 優秀な口頭発表に対する「エクスプレス・WL」投稿の無料特典者の推薦制度について、2022 年度春季全国大会において 1 件、2022 年度秋季全国大会において 5 件の推薦を決定した。これに伴い、学会事務局より該当者へ推薦の通知を行うとともに、「エクスプレス・WL」投稿の特典(1 年間有効)を贈呈した。
- (7) 2019 年度春季全国大会から設定した「業界セッション」として、2022 年度春季・秋季全国大会にて、それぞれ「自動車: 2 セッション」と「自動車: 8 セッション、造船: 2 セッション」を実施した。
- (8) 2022 年度秋季全国大会において、中国支部と日本機械学会中国四国支部との共催にて「技術セッション」を、また日本溶接協会および中国支部との共催にて「ワークショップ」を開催した。
- (9) 2023 年度春季全国大会の開催形式について議論し、オンライン開催とするものの、一般講演はオンデマンド形式、その他の企画イベントはライブ形式にて実施することとし、運用準備にあたった。また、特別講演・シンポジウムでは日本溶接協会との共催企画とした。

4.6 溶接教育委員会(藤井 英俊 委員長)

- (1) 年度内 2 回の委員会を開催し、本会の普及・教育活動に関する課題について検討した。

- (2) 2022 年度溶接入門講座を 2 回開催した。(前掲)
- (3) 2022 年度溶接工学夏季大学を 1 回開催した。(前掲)
- (4) 2022 年度溶接工学専門講座を 1 回開催した。(前掲)
- (5) 2022 年度溶接工学企画講座を 1 回開催した。(前掲)

なお、今年度はそれぞれの講習会をオンライン方式、オンデマンド配信方式、対面方式にて実施した。

- (6) 日本溶接協会との連携による国際溶接学会 (IIW) 溶接技術者資格制度特認 コースの試験が 1 回行われた。プロフェッショナル・インタビュー、プロジェクトワーク、最終筆記試験を実施し、IWE 11 名, IWS 1 名, IWT 2 名がディプロマを取得した。
- (7) 溶接学会各支部や研究委員会、日本溶接協会が企画・実施した講習会やセミナー、シンポジウムの IIW 履修ポイントについて、IIW 特認コース WG を通してアナウンスした。
- (8) 溶接技術者・溶接技能者の育成のための学協会-教育機関(大学・高専・工業高校)の連携活動の一環として、大阪大学接合科学研究所の IIW-ATB 活動の支援 を行った。その結果、IWE 2 名が最終筆記試験に合格し、ディプロマを取得した。
- (9) 委員会内に講習会 WG を設置し、講習会全体の今後のあり方につき協議した。講師の交代も含めて次年度の実施内容に反映させる。

4.7 国際交流委員会 (青山和浩委員長)

- (1) 日本溶接会議(JIW)の活動を通じ、国際溶接学会 (第 75 回 IIW 年次大会 : 7 月 17 日~22 日) を東京大会として JIW を通じて参画した。国際会議は溶接・接合を会議名に付し各国から論文が 132 件 (一般) 投稿された。43 カ国から 820 名 (対面 : 553, オンライン : 267) の参加登録者があり、成功裏に終了した。また、年次大会の中心として位置付け従来からの開催方式を大幅に変更したものを IIW 理事会に提案し開催した。
 - ・ 16 July: Preliminary and administrative meetings
 - ・ 17 July: IIW General Assembly and Opening ceremony
 - ・ 18 July: IIW International Conference on Welding and Joining
 - ・ 19-21 July: Meetings of IIW Technical Working Units (Commissions and Study Groups) and IAB
 - ・ 22 July: Administrative Units
- (2) アジア溶接連盟 (AWF) は、7 月に IIW2023 の会期に合わせて東京にて、12 月にはインドネシア/バリにてハイブリッド会議を持った。

5. 若手会員の会運営委員会 (鶴田 駿 委員長)

5.1 若手会員のためのフォーラム

(1) 春季全国大会イブニングフォーラム

日時 : 2022 年 4 月 14 日 (木) 13:30~15:30

主題 : 若手研究者・技術者のこれまでとこれから

開催方式 : Remo Conference によるオンライン開催

講演 : 藤原雅之氏 (ダイヘン)、三輪剛士氏 (神戸製鋼所)、

清水万真氏 (大阪大学)、崔正原氏 (広島大学)

宗村尚晃 (JFE スチール)、山下享介氏 (大阪大学)

(2) 秋季全国大会ポスターセッション

日時 : 2022 年 9 月 9 日 (水) 17:00~19:00

開催場所 : くにびきメッセ (島根県松江市) 多目的ホール (後方 1/3) & 入口フリースペース

発表件数 : 60 件

5.2 若手会員のための研究会

(1) 第 1 回研究会・施設見学会

日時 : 2022 年 11 月 29 日 (火) 13:00~16:45

講演 : 山下享介氏 (大阪大学)、鈴木良治氏 (発電設備技術検査協会)、吉川脩平氏 (川崎重工業)

(2) 第 2 回 Web 研究会

日時 : 2022 年 3 月 10 日 (金) 13:00~16:00 (予定)

5.3 若手会員のための勉強会

第 1 回 Web 勉強会「若手会員ネットワーク形成のためのオンライン名刺交換会」

日時 : 2022 年 8 月 26 日 (金) 17:00~18:00

5.4 グローバルネットワーク活動

- (1) IIW2022 における若手セッション開催
日時：2022年7月18日（月）
主題：Introduction to Research and Networking Activities by JWS-Young Researcher Group
- (2) IIW2022 における Young professional のイベントの企画・運営
 - ・ YP Ice Breaking Session：2022年7月17日（日）
 - ・ Young Professional's Evening：2022年7月19日（水）

5.5 広報および情報交換

- (1) 溶接学会誌「若手会員の会自由編集ページ」に、運営委員会、WEB 勉強会の報告等を掲載した。
- (2) 溶接学会誌の「スポットライトー若手の特集記事ー」として「溶接タマゴ」および「私の溶接履歴」を6件、特集記事「新進気鋭ー溶接 DX の最前線に挑む若手研究者たちー」を掲載した。
- (3) ホームページに活動報告、行事案内等を掲載した。
- (4) メーリングリスト（E-mail）による情報交換を促進した。
有効登録者数約240名（2023年2月20日現在）
E-mail 投稿数約14通（2022年3月1日から2023年2月20日まで）

5.6 若手会員の会運営委員会

計2回の運営委員会を開催し、活動方針と企画について審議した。

- (1) 第66回運営委員会
開催方式：WEB 会議
日時：2022年4月25日（火）15:00～16:00
出席：21名（委任13名）
- (2) 第67回運営委員会
開催場所：島根県松江市 くにびきメッセ（島根県立産業交流会館）
日時：2022年9月9日（金）12:00～13:00
出席：30名（委任5名）

6. その他の諸会合

支部長連絡会議（理事会合同開催） 2回（WEB 開催及びハイブリッド開催）

7. 会勢

会員数（2023年2月末現在）

	賛助員		個人会員						団体員	
	会員数	口数	名誉員	特別員	推薦会員	正員	学生員	合計	員数	口数
2020.2	333	774	31	74	10	2,193	200	2,508	24	24
2021.2	326	751	32	71	10	2,155	216	2,484	23	23
2022.2	315	731	35	69	8	2,141	207	2,460	23	23
2023.2	315	730	35	71	7	2,094	212	2,419	22	22

Ⅲ 2022年度 支部報告

1. 北海道支部（櫻庭洋平支部長）

1. 事業

1.1 2022年度技術講習会

新型コロナウイルスの緊急事態宣言等の解除時期が予測不能なため、今年度の開催を中止した。

1.2 見学会

新型コロナウイルスの緊急事態宣言等の解除時期が予測不能なため、今年度の開催を中止した。

2. 会務

2.1 2022年度支部商議員会並びに支部総会

新型コロナウイルスの感染拡大および緊急事態宣言等により、今年度の商議員会および支部総会を中止した。

2.2 各賞授賞審査および選考

2022年度の各賞の審査および選考を書面審議により行った。

- (1) 溶接学会溶接技術普及賞 1名
- (2) 溶接学会溶接技術奨励賞 1名
- (3) 溶接学会北海道支部学生奨学賞 1名

2.3 表彰

(1) 2022年度溶接技術奨励賞

齋藤 繁 氏（北海道科学大学）

支部総会の中止に伴い、賞状および副賞の郵送を以て表彰式に代えることとした。

(2) 2022年度溶接技術普及賞

岡田 昌樹 氏（旭川工業高等専門学校）

支部総会の中止に伴い、賞状および副賞の郵送を以て表彰式に代えることとした。

(3) 2022年度 第28回北海道地区溶接技術競技大会

今年度も新型コロナウイルスの感染拡大により、競技会が書面審査に変更となった。

表彰式は8/25に札幌市にて開催され、被覆アーク溶接および半自動溶接の成績最優秀者各1名に溶接学会北海道支部長賞の賞状および副賞を授与した。

2.4 幹事会

新型コロナウイルスの感染拡大および緊急事態宣言等により、対面での幹事会を中止し案件毎のメール審議とした。

2. 東北支部（佐々木 正司 支部長）

1. 事業

1.1 第34回溶接・接合研究会

主催：溶接学会 東北支部

日時：2022年7月5日（金）13:00 - 16:55

会場：ZOOMによるオンライン開催

参加者数：28名

(IIW履修ポイント：2.1pt (M1: 1.2 pt, M2: 0.5 pt, M3: 0.2 pt, M4: 0.2 pt)、
WESクレジットポイント：4ポイント認定)

特別講演1件、講演8件

特別講演

「溶接・接合研究会を振り返って」

秋田県産業技術センター 木村 光彦 氏

講演

(1) コールドスプレー法における衝突粒子の変形挙動と固相接合

東北大学 ○市川裕士, 齋藤宏輝, C. A. Bernard, 小川和洋

(2) レーザクラッド粉末供給状態のその場観察

岩手県工業技術センター ○桑嶋孝幸, 園田哲也

ナックイメージテクノロジー 小堀 健介

神奈川県立産業技術総合研究所 薩田寿隆

(3) 金属積層造形品のレーザ溶接について

岩手県工業技術センター 園田哲也, 久保貴寛, 桑嶋孝幸, 黒須信吾

- (4) マルエージング鋼積層造形材の残留応力に及ぼす熱処理の影響
岩手大学 ○菅原正真
岩手県工業技術センター 黒須信吾, 桑嶋孝幸
岩手大学 脇 裕之
- (5) コールドスプレー法で得られた多孔質膜を介する金属/熱可塑性樹脂の接合技術の開発
東北大学 ○久米俊也, 佐藤 裕, 宮口雅也, 鴫田 駿
岩手県工業技術センター 桑嶋孝幸, 園田哲也, 佐々木龍徳, 久保貴寛
- (6) 1.4GPa 超級 S55C 調質鋼板を対象とした摩擦攪拌接合
秋田大学 ○宮野泰征, 鷲谷洋希, 佐藤啓陸
秋田県産業技術センター 木村光彦
大阪大学 青木祥宏, 潮田浩作, 藤井英俊
- (7) 摩擦攪拌接合で得られた Al/Cu 異種金属接合継手の界面強度に及ぼす Ni 添加の影響
東北大学 ○三村俊介, 倉林康太, 佐藤 裕, 鴫田 駿
- (8) Al/Fe 複動式摩擦攪拌点接合における超硬合金ツール変質機構の解析
東北大学 ○窪田凌士, 鴫田 駿, 佐藤 裕
川崎重工業 武岡正樹, 大橋良司

1.2 基礎セミナー

主催：溶接学会 東北支部

日時：2022年12月6日（火）9:30 - 17:20

会場：宮城県 古川商工会議所（宮城県大崎市古川東町5番46号）

参加者数：23名

(IIW 履修ポイント：3.6pt (M1: 1.1 pt, M2: 0.7 pt, M3: 0.8 pt, M4: 1.0 pt)、
WES クレジットポイント：7ポイント認定)

講演 4 件

- (1) 溶接法および溶接機器
東北大学大学院工学研究科 佐藤 裕
- (2) 金属材料と溶接性ならびに溶接部の特性
東北大学大学院工学研究科 鴫田 駿
- (3) 溶接構造の力学と設計
福島工業高等専門学校 鈴木 茂和
- (4) 溶接施工・管理
福島労働基準協会 村井 信昭

2. 会務

2.1 第59回商議員会

2022年5月11日（水）10:00~10:45

ZOOMによるオンライン開催

2.2 表彰

(1) 溶接技術奨励賞ならびに普及賞

2022年5月10日（火）メールにて報告

新型コロナウイルス感染防止のため、表彰式は中止

2021年度溶接技術普及賞：2名

(2) 溶接学会本部および東北支部奨学賞

2022年5月10日（火）メールにて報告

2021年度溶接学会奨学賞（報告）：1名

2021年度溶接学会東北支部奨学賞（報告）：3名

表彰日：2022年1月30日（水）

2021年度溶接学会東北支部奨学賞：3名

2.3 総会：商議員会議事録抜粋を支部会員に電子メール送信もしくは郵送（2022年6月21日付）

3. 東部支部（宮下幸雄支部長）

1. 事業

1.1 第47回実用溶接講座

主催：溶接学会 東部支部

開催日時：2023年2月2日（木）13:00-17:30

開催場所：web開催

参加者：21名

題目 : 「カーボンニュートラルと接合技術」

講演 :

- 1) 「高圧水素用高強度ステンレス鋼 HRX19R の溶接性」日本製鉄株式会社 浄徳 佳奈 氏
- 2) 「自動車の軽量化・マルチマテリアル化に向けた異種材接合技術の動向と課題」
株式会社神戸製鋼所 鈴木 励一 氏
- 3) 「液化水素タンクの MIG 溶接技術の開発」川崎重工業株式会社 青木 篤人 氏
- 4) 「洋上風力発電に適した溶接用厚鋼板とその関連技術」日本製鉄株式会社 本間 竜一 氏

1.2 溶接学会東部支部 第7回 溶接・接合研究交流会

主催：溶接学会 東部支部

本年度は実施せず

1.3 地区講演会・講習会など

(1) 東京地区 (地区委員長：笹木聖人 (日鉄溶接工業))

本年度は実施せず。

(2) 神奈川地区 (地区委員長：小川亮 (神戸製鋼所))

本年度は実施せず。

(3) 千葉地区 (地区委員長：前田将克 (日本大学))

本年度は実施せず。

(4) 埼玉地区 (地区委員長：金子裕良 (埼玉大学))

本年度は実施せず。

(5) 群馬地区 (地区委員長：楠元一臣 (群馬大学))

本年度は実施せず。

(6) 栃木地区 (地区委員長：菅野金一 (関東職業能力開発大学校))

本年度は実施せず。

(7) 茨城地区 (地区委員長：宮城雅徳 (日立製作所))

本年度は実施せず。

(8) 山梨地区 (地区委員長：宮川和幸 (山梨県産業労働部成長産業推進課))

本年度は実施せず。

(9) 長野地区 (地区委員長：中込忠男 (信州大学))

本年度は実施せず。

(10) 新潟地区 (地区委員長：宮下幸雄 (長岡技術科学大学))

新潟地区講演会

主催：(一社)溶接学会 東部支部、(公社)日本材料学会 北陸信越支部、(公財)燕三条地場産業振興センター

開催日時：2022年10月21日(金) 13:00～16:00

開催場所：(公財)燕三条地場産業振興センター リサーチコア7F マルチメディアホール
(新潟県三条市須頃1-17) / オンライン配信

参加者：78名(現地；37名、web；41名)

題目：「溶接技術講演会 溶接の見える化」

講演：

- 1) 「溶接モニターカメラを用いたアーク溶接可視化解析事例について」株式会社ノビテック 森 一記 氏
- 2) 「最新レーザー技術と加工に使用されるモニタリング技術」トルンプ株式会社 中村 強氏
- 3) 「溶接訓練の DX 化」株式会社 IHI 野々村 将一 氏

2. 会務報告

2.1 2022年度支部通常総会

開催日時：2022年5月18日(水) 12:00～2022年5月27日(金)12:00

開催場所：メール会議

議 題：

- 1) 2021年度 事業報告および会務報告
- 2) 2021年度 収支決算報告
- 3) 2021年度 監査報告
- 4) 2022年度 事業計画
- 5) 2022年度 収支予算

2.2 常任幹事・地区委員長会議

第210回 2022年4月21日(木) 10:00～12:00 web会議

第211回 2022年5月20日(木) 13:00～15:00 web会議

- 第212回 2022年 9月 1日 (木) 10:00~12:00 web会議
第213回 2022年12月 1日 (水) 15:00~17:00 web会議
第214回 2023年 1月26日 (木) 10:30~12:00 web会議

2.3 各賞受賞審査委員会

2021年度 溶接学会 東部支部 各賞審査委員会を下記のように組織し、書面審査した。

- ・溶接技術奨励賞 審査委員会：宮下幸雄 委員長、中村照美 委員長、宮川和幸 委員、前田将克 委員、松山秀信 委員、瀬渡直樹 委員 (6名)
- ・溶接学会奨学賞 審査委員会：宮下幸雄 委員長、宮川和幸 委員、前田将克 委員、松山秀信 委員、瀬渡直樹 委員

審査期間：2023年1月17日 (火)~2023年1月23日 (月)

審査結果報告：2023年1月26日 (木)

審査の結果、2022年度各賞候補者をそれぞれ下記の各氏 (敬称略) にすることを決定した。

【溶接技術奨励賞】

- 樽井大志 氏 (日産自動車株)
- 瀬渡直樹 氏 (国立研究開発法人産業技術総合研究所)

【溶接技術普及賞】

なし

【溶接学会奨学賞】

- 正木丈翔 氏 (埼玉大学大学院)

2.4 表彰

1) 2021年度 溶接技術奨励賞、溶接技術普及賞の表彰

2022年5月表彰状を推薦者に送付し、推薦者から下記受賞者に表彰状を授与して表彰した。

【溶接技術奨励賞】

- 樽井大志 氏 (日産自動車株)
- 瀬渡直樹 氏 (国立研究開発法人産業技術総合研究所)

【溶接技術普及賞】

- 塚原幸一 氏 (株中里鋼業)

2) 2021年度溶接学会奨学賞の表彰

2022年3月楯を推薦者に送付し、推薦者から下記受賞者に楯を授与して表彰した。

【溶接学会奨学賞】

- 遠山史晃 氏 (埼玉大学大学院)

4. 東海支部(植松美彦支部長)

1. 教育・研究事業

1. 1 溶接研究会, 溶接技術講習会

(1) 溶接研究会

第101回 令和4年8月31日 (水) 13:25~16:20

ハイブリッド形式

現地：名古屋市工業研究所 電子技術総合センター 視聴覚室 10名

オンライン：Microsoft Teams 29名

研究会テーマ 「鋼橋の溶接信頼性の評価向上技術」

「VR・MR技術を用いた溶接施工性確認の現状について」

オフィスケイワン株式会社 保田 敬一 氏

「ピーニングによる溶接継手疲労強度向上策について」

東洋精鋼株式会社 半田 充 氏

「溶接残留応力測定による疲労き裂検出法について」

瀧上工業株式会社 櫻井 勇太 氏

第102回 令和4年12月15日 (木) 13:00~17:00

ハイブリッド形式

現地：名古屋市工業研究所 電子技術総合センター 視聴覚室 13名

オンライン：Microsoft Teams 33名

研究会テーマ 「ものづくり DX の最新動向」

「グーグルクラウドの AI ソリューションと顧客事例」

グーグル・クラウド・ジャパン合同会社 児玉 敏男氏

「製造業における AI, IoT 活用のススメ：安価に始める振動・環境モニタリングと異常検知」

名古屋工業大学 大塚 孝信氏

「橋梁の付属物取付確認におけるデジタル重畳の活用」

日本ファブテック株式会社 宍戸 敏氏

「鉄骨工事現場溶接へのロボット導入に向けた課題」

大成建設株式会社 建築本部 梅津 匡一氏

「JMU 造船現場におけるデジタル化の取り組み」

ジャパンマリンユナイテッド株式会社 草場 卓哉氏

2. 会務

2.1 令和4年度支部総会および特別講演

日時：令和4年5月27日（金） 14：00 ～ 16：00

オンライン開催 Webex 19名

総会議題

- 1) 令和3年度事業報告及び決算報告
- 2) 令和3年度溶接学会技術賞支部授賞式：
溶接技術奨励賞受賞者： 渡辺吾朗 君
- 3) 2022・2023年度支部新体制のご紹介
- 4) 令和4年度事業計画案及び令和4年度予算案
- 5) その他

特別講演

「研究の思い出、私が視たもの」 吉利汽車中央研究院 渡辺吾朗 君

2.2 支部商議員会，全国大会支部実行員会

第1回支部商議員会

令和4年5月27日（金）WEB

3. その他 協賛行事等

なし

5. 北陸支部(柴柳敏哉支部長)

1. 事業

1.1 講演会

(1) 特別講演会（主催）

日時：2022年12月8日（木）14:45～16:15

場所：富山大学工学部大会議室（オンライン併用）

講師：田中 学 教授（大阪大学接合科学研究所・所長）

演題：マルチマテリアル時代の溶接・接合科学の進歩と発展

(2) 研究集会（共催）

研究会1

日時：2022年7月15日（金）14:00～16:00

場所：富山大学総合教育研究棟35講義室（オンライン併用）

講師：平木 岳人 准教授（東北大学）

演題：アルミニウムとリサイクル

研究会 2

日時：2022年10月24日（月）13:00～15:00
場所：富山大学工学部大会議室（オンライン併用）
講師：森田 一樹 教授（東京大学）
演題：金属製精錬のための基礎熱力学

研究会 3

日時：2022年12月21日（水）14:00～16:00
場所：富山大学工学部中会議室（オンライン併用）

講演 1

講師：白鳥 智美 教授（富山大学）
演題：塑性加工用金型の高精度化のポイント

講演 2

講師：堂田 邦明 教授（North Western Univ.）
演題：AA7075 合金の押し出し速度の向上

研究会 4

日時：2023年2月17日（金）13:00～15:00
場所：富山大学工学部大会議室（オンライン併用）

講演 1

講師：斉藤 健 氏（ハイドロアルミニウム・アジア有限責任会社）
演題：Hydro Aluminium のサステナビリティへ向けた技術研究開発

講演 2

講師：柴柳 敏哉 教授（富山大学）
演題：先進アルミニウム国際研究センター 事業紹介

2. 会務

2.1 幹事会・商議員会

2023年3月20日にメール審議にて開催。

6. 関西支部（田中学支部長）

1. 事業

1.1 2022年度溶接技術奨励賞記念講演

日時：2022年6月3日（金）16:00～17:00

場所：Cisco Webex によるオンライン開催

出席者：25名

講演件数：1件

- ・アーク溶接制御の研究開発とその実用化
（株式会社ダイヘンテクノサポート 上園敏郎 氏）

1.2 2022年度溶接技術奨励賞記念講演

日時：2022年11月30日（水）13:35～14:10

場所：兵庫県立大学 姫路工学キャンパス 書写記念会館

出席者：16名

講演件数：1件

- ・ガス製造設備における維持管理および新規材料の開発
（大阪ガス株式会社 室嘉浩 氏）

1.3 2022年度講演・見学会，技術交流会

日時：2022年11月30日（水）14:10～14:45（講演会）14:50～16:25（見学会）

場所：兵庫県立大学 姫路工学キャンパス 書写記念会館および大学院工学研究科

出席者：16名

講演件数：1件

- ・低推力負荷条件で摩擦スタッド接合するためのスタッド形状の検討と軟鋼継手の強度

（兵庫県立大学 大学院工学研究科 木村 真晃 氏、齊藤 暖 氏（現 コベルコ建機株式会社）、日下 正広 氏、海津 浩一 氏）

見学先：実験室、工作センター、金属新素材研究センター

（技術交流会は感染拡大状況を考慮して中止）

2. 会務

2.1 2022年度幹事会

日時：2022年6月3日（金）

場所：Cisco Webexによるオンライン開催

出席者：25名

議事：

- (1) 2021年度幹事会議事録について
- (2) 2021年度事業報告について
- (3) 2021年度支部決算報告、監査報告について
- (4) 溶接学会関西支部規約改訂について
- (5) 2022年度事業計画について
- (6) 2022年度予算案について
- (7) 2022年度講演・工場見学会について

7. 中国支部（濱田邦裕支部長）

1. 事業

1.1 講演会および講習会

1.1.1 技術セッション（溶接学会秋季全国大会時に開催）

- (1) 開催日時：2022年9月10日（土）
- (2) 場所：くびきメッセ（島根県松江市，ハイブリッド開催）
- (3) テーマ：日本の製造業におけるデジタルものづくりの最新動向
- (4) 受講者：147名
- (5) 共催：（一社）日本機械学会中国四国支部
- (6) 講演題目
 - (a) デジタル技術による自動車生産の革新（日産自動車（株） 守屋 岳志 氏）
 - (b) コマツにおけるデジタル技術を活用したDXの取り組み（コマツ 足立 貴嗣 氏）
 - (c) 日立における車両モノづくりのデジタル化（（株）日立製作所 江角 昌邦 氏）
 - (d) 造船メーカーにおけるデジタルものづくりの最新動向（ジャパン マリンユナイテッド（株） 草場 卓哉 氏）
 - (e) 鉄鋼メーカーにおけるデジタルものづくりの最新動向（JFEスチール（株） 飯塚 幸理 氏）

1.1.2 ワークショップ（溶接学会秋季全国大会時に開催）

- (1) 開催日時：2022年9月9日（金）
- (2) 場所：くびきメッセ（島根県松江市，ハイブリッド開催）
- (3) テーマ：現場で使える溶接技術の基礎と最新動向
- (4) 受講者：93名
- (5) 共催：（一社）日本溶接協会
- (6) 講演題目
 - (a) 【基調講演】レーザ溶接技術の基礎と最新動向（（株）ナ・デックス 片山 聖二 氏）
 - (b) 建築鉄骨・橋梁分野向け溶接ロボットシステムの技術動向（（株）神戸製鋼所 戸川 貴雄 氏）
 - (c) 非破壊検査技術の基礎と最新動向（（株）ウィズソル 大橋 毅 氏）
 - (d) 認証のデジタル化と外国人を含む資格・教育の最新動向ー日本溶接協会の最新動向ー（（一社）日本溶接協会 水沼 渉 氏）

1.2 溶接学会中国支部主催「第7回 学生発表会」

- (1) 日時：2022年12月21日（水）
- (2) 開催場所：広島大学ライブラリーホール（対面とオンラインのハイブリッド）
- (3) 参加者：38名
- (4) 口頭発表（13件）
- (5) ポスター発表（14件）

2. 会務

2.1 支部幹事会

2.1.1 第1回（支部商議員会・総会を同時開催）

日時：2022年3月29日（火）15：00～17：00

場所：WEB開催

議事：

- (1) 2021 年度事業報告
- (2) 2021 年度決算報告
- (3) 2022 年度事業計画
- (4) 2022 年度収支予算
- (5) 2021 年度表彰報告
- (6) 2022 年度の支部体制について
- (7) 2022 年度秋季全国大会への対応について
- (8) 溶接技術奨励賞受賞特別講演：日野 稔 先生（広島工業大学）
- (9) その他

2.1.2 第 2 回（支部商議員会を同時開催）

日時：2022 年 8 月 3 日（水） 15：00～17：00

場所：WEB 開催

議題：

- (1) 2022 年度秋季全国大会の運営について
- (2) 商議員選挙について
- (3) その他

2.1.3 第 3 回（支部商議員会を同時開催）

日時：2021 年 1 月 20 日（金）

場所：メール審議

議題：

- (1) 2022 年度支部表彰について
- (2) その他

2.2 支部総会

日時：2022年3月29日（火）15：00～17：00

場所：WEB 開催

議事：

- (1) 2021 年度事業報告
- (2) 2021 年度決算報告
- (3) 2022 年度事業計画
- (4) 2022 年度収支予算
- (5) 2021 年度表彰報告
- (6) 2022 年度の支部体制について
- (7) 2022 年度秋季全国大会への対応について
- (8) 溶接技術奨励賞受賞特別講演：日野 稔 先生（広島工業大学）
- (9) その他

2.3 表彰

- (1)2021 年度溶接技術奨励賞
日野 稔 氏（広島工業大学）
- (2)2021 年度溶接技術奨励賞
草場 卓哉 氏（ジャパンマリンユナイテッド（株））
- (3)2021 年度溶接学会奨学賞
丸本 啓太 氏（広島大学）
- (4)2021 年度溶接学会中国支部 山本正登奨学賞（10 名）
- (5)2021 年度溶接学会中国支部 最優秀ポスター発表賞
植木 拳 氏（近畿大学）
- (6)2021 年度溶接学会中国支部 優秀ポスター発表賞（13 名）

溶接技術奨励賞および普及賞は 2022 年 3 月開催の支部総会において表彰

上記(3)-(6)の学生表彰は 2022 年 3 月に賞状・記念品を推薦者に送付し、卒業・修了式時に表彰

2.4 その他

2022 年度秋季全国大会に関するメール審議・打ち合わせ（WEB および対面）を実施

8. 四国支部（日野孝紀支部長）

1. 事業

1.1 第 27 回溶接学会 四国支部講演大会

主催：溶接学会四国支部
共催：香川県産業技術センター
日時：2022年3月9日（水）
形式：オンライン
発表：7件
参加者：24名
講演内容：

1. 二相ステンレス鋼溶接金属の組織分布状態
新居浜工業高等専門学校 ○永易翔和，真中俊明，日野孝紀
四国溶材株式会社 宇野正記
2. 二相ステンレス鋼溶接部の組織と水素放出挙動の関係
新居浜工業高等専門学校 ○秦斗哉，塩崎瑛博，真中俊明，日野孝紀
四国溶材株式会社 宇野正記
3. パルスガスMAG溶接法におけるガスコスト削減のためのシールドガス組成と添加時間の最適化
愛媛大学工学部機能材料工学科（学部学生） ○門脇祥
愛媛大学大学院理工学研究科（大学院生） 坂田健太郎
愛媛大学大学院理工学研究科 水口隆
川田工業株式会社 津山忠久，藤原康平
愛媛大学 小原昌弘
4. パルスガスMAG溶接法における液滴移行形態に及ぼす溶接条件の影響
愛媛大学大学院理工学研究科（大学院生） ○坂田健太郎
愛媛大学工学部機能材料工学科（学部学生） 門脇祥
愛媛大学大学院理工学研究科 水口隆
川田工業株式会社 津山忠久，藤原康平
愛媛大学 小原昌弘
5. 二相ステンレス鋼中のオーステナイト相の定量
新居浜工業高等専門学校 ○越智壮二郎，真中俊明，日野孝紀
6. 地球および擬似火星大気中における交流GTAの電子密度分布計測
香川高等専門学校 ○青山海斐，正箱信一郎，寺嶋昇，山下智彦
大阪大学接合科学研究所 田中学，古免久弥
7. 予熱した炭素鋼に対するレーザ焼入れ
阿南工業高等専門学校 専攻科 ○柳川真之裕
阿南工業高等専門学校 創造技術工学科 金森海，奥本良博，西本浩司，安田武司

1.2 第30回溶接技術実用講座

主催：溶接学会四国支部
共催：香川県産業技術センター
日時：2022年11月18日（金）
形式：オンライン
参加者：123名
講演内容：

1. 二相ステンレス鋼溶接金属の微視組織を考慮した水素割れ評価
三上欣希（大阪大学接合科学研究所）
2. ステンレス鋼の溶接部性能の確保
小川和博（大阪大学）
3. 二相ステンレス鋼の溶接について
大泉 真吾（日鉄溶接工業株式会社）

1.3 刊行

出版物：第27回溶接学会四国支部講演大会概要集(PDF配布)

9. 九州支部（後藤 浩二 支部長）

1. 事業

1.1 2022年度 溶接学会九州支部研究発表会

主催：溶接学会九州支部
日時：2022年9月1日（木）9:30～16:20
場所：Web会議と対面（九州大学伊都キャンパス）のハイブリッド形式
参加者：35名

研究発表：14件（研究題目と発表者（○：講演者）は下記の通り）

- 1) 繰返し負荷を受ける鋼材の応力～ひずみ関係に関する実験的検討：○下岡 司（九大院），村上 幸治・松田 和貴・後藤 浩二（九大）
- 2) 抵抗スポット溶接L字継手の引張強度に及ぼす打点ピッチの影響の解明：○河野 大輔（九工大院），北村 貴典（九工大），箕輪 遼太郎（九工大院）
- 3) 差厚抵抗スポット溶接継手の引張せん断強度に及ぼす板の変形の影響：○岩谷 航希（九工大院），北村 貴典（九工大），清藤 亮（九工大院）
- 4) 接合界面の欠陥生成に及ぼす酸化被膜の影響：○府高 壮一朗（九工大院），山口 富子（九工大），猿渡 周雄（日本製鉄）
- 5) リングモード波形による溶融亜鉛めっき鋼板のファイバーレーザ溶接：○久保 皓生（九工大院），山口 富子（九工大）
- 6) 粗製リン酸を模したリン酸によるステンレス鋼板の耐食性：○田口 浩幸・麻生 誠也・大鶴 由香里（臼杵造船），倉重 義和（ニューシッピング），緒方 洋典（臼杵造船）
- 7) エンクローズアーク溶接施工法を適用したレールの溶接：○岩崎 良二・浜水 聖・篠原 誠・浜田 宏昭・小出 鷹史・中野 光一（高田工業所）
- 8) 9Cr-1Mo-V 鋼 GTAW 溶接金属の靱性向上を目的とした溶接施工方法：○中野 真克（日立造船）
- 9) 省合金二相ステンレス鋼の溶接部におよぼすティグ溶接の窒素入りシールドガスの影響：中野 正大・○山口 ちひろ（高田工業所）
- 10) 鉄粉を利用した新規固体浸炭法における試料回収の簡便化：○池上 沙良（久留米高専専攻科），森園 靖浩（久留米高専），山室 賢輝・連川 貞弘（熊本大）
- 11) ConvNet による低炭素鋼マイクロ組織 SEM 像のクラス識別：○合田 鈴之輔（熊本大院），寺崎 秀紀（熊本大），筒井 和政（日本製鉄）
- 12) 高張力鋼用ワイヤを用いた WAAM によるアーチ状グレーチングビルドの作製：○森本 堅太（熊本大院），寺崎 秀紀（熊本大）
- 13) 疲労強度改善のためのレーザ照射による結晶粒微細化に関する基礎検討：○寺辻 和陸（九大院），内村 友哉・松田 和貴・後藤 浩二（九大）
- 14) 機械学習を援用した溶接施工条件および溶接音を入力変数としたすみ肉溶接ビード形状の予測に関する研究：○馮 永益（九大院），渡辺 範弘・山岸 賢人（大島造船），松田 和貴・後藤 浩二（九大）

1.2 刊行

出版物名：溶接学会九州支部講演論文集、第19号

2. 会務

2.1 2022年度 商議員会

2022年3月23日（Web会議）

上記以外に、表彰推薦関係、予算案等について書面回議を複数回実施

2.2 表彰

商議員の書面審議にて、以下の推薦・表彰を審議、承認。

溶接学術振興賞（推薦）：1名

溶接技術奨励賞（推薦）：2名

溶接技術普及賞（推薦）：2名

溶接学会奨学賞（推薦）：2名

九州支部奨学賞：2名

支部規定に沿って、以下の表彰を実施

九州支部優秀学生表彰：4名

2.3 2022年度 通常総会

日時：2022年5月28日～6月3日（書面回議）

出席者：124名

2.4 表彰式

COVID-19 影響のため中止とし、個別に授与した。